

「今こそ取り組むべき災害への備え 日本語学校と連携し防災イベント 物件入居の留学生 80人が参加」

日本語学校と連携し防災イベント 物件入居の留学生80人が参加

「ビレッジハウス・マネジメント



代表取締役社長兼CEO
岩元 龍彦氏

アフォーダブル住宅「ビレッジハウス」を展開するビレッジハウス・マネジメント（東京都港区）では、運営する物件で定期的に入居者向けの防災イベントを行っている。このほど、三原国際語学院（広島県三原市）と市内に立地する「ビレッジハウス三原筆影」で、災害時に助け合うが連携して、防災イベントを実施した。

広島県福山市や尾道市、三原市、ならびに岡山県笠岡市や井原市などの7市2町は連携する留学生111人で、この

「避難所での役立つ道具」をテーマに、参加者が「AED」を初め、心臓マッサージや心肺蘇生法の体験などを実施した。参加者からは「AEDを初めて触り、とても勉強になりました。今後何をすればよいのかを学んだので安心して自己信も持てました」など、信が聞かれた。

域」となち80人は「ビレッジハウス三原筆影」に入居する。国籍はネパールの5%、三原市単体では約3・1%を占める（2024年5月末現在）。こうした外国人の増加を背景に、「ビレッジハウス」を策定し、地域の多文化共生を図っている。

「避難所での役立つ道具」をテーマに、参加者が「AED」を初め、心臓マッサージや心肺蘇生法の体験などを実施した。参加者からは「AEDを初めて触り、とても勉強になりました。今後何をすればよいのかを学んだので安心して自己信も持てました」など、信が聞かれた。



▲▲防災イベントでは留学生が初期消火訓練や心肺蘇生などを体験した

ロジエクトおよび留学生のみを対象にしたイベントは初開催だといふ。岩元龍彦社長は取材に対して「日本の災害特性や日頃の備えを学ぶと同時に、地域の方々と顔の見える関係構築は重要」と話した。

参加者は三原国際外語学院に在籍する留学生111人で、この

同社では2022年